

健康ライン～ひと・動物をめぐり、環境を守る～

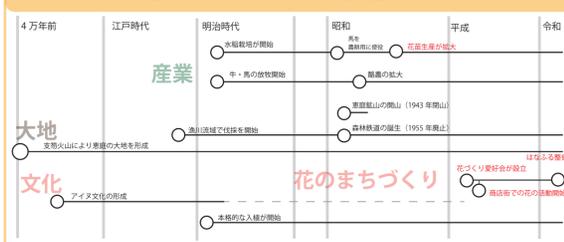
新型コロナウイルスの感染拡大、少子高齢化やストレス社会と言われる中で、「健康」の重要性が増している。

新たなフェーズの「GARDEN CITY」とは、花や自然を活用した人・環境・動物が健康な「ヘルスガーデンシティ」と考える。

そこで、都市部での花の活動から郊外の森林・河川を恵庭の資源として捉え、アクティビティを通じて人の健康を図り、空間整備により動物環境の健全をもたらす。



01 調査 Research 花と自然のまち、恵庭



4万年前、恵庭岳の火山活動により恵庭の大地が形成された支笏洞窟国立公園で育まれた水が漁川を通じ、恵庭の文化・産業に影響を与えてる平成初期から花のまちづくりが始まり、今日も育まれ恵庭の文化となっている。現地調査から、恵庭の資源は花と自然と考える。

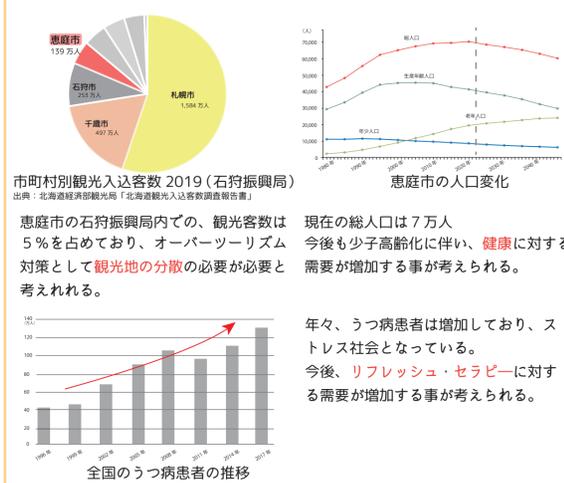
02 現状 Status quo 健康の重要性

Global One Health の提唱

1993年世界獣医師会世界大会の「ベルリン宣言」が発端となり、人獣共通感染症に対応するために、人と動物、環境の健康・健全性を一体的に守っていくという考え。

新型コロナウイルス感染症をはじめとする人獣共通感染症は、生態系の劣化、土地利用の変化等によって動物と人との関係が変化するために、元々野生動物が持っていた病原体が、様々なプロセスを経て人にも感染可能になったとされ、3つの健康・健全が重要な今後、重要な課題である。

Local 観光・少子高齢化社会・ストレス社会



03 提案 Proposal ヘルスガーデンシティ

今後の少子高齢化の恵庭において「健康」は重要な要素と捉え、恵庭の資源である、自然環境と花・ガーデン文化を活かして、人と生物環境の保全を目指す。

